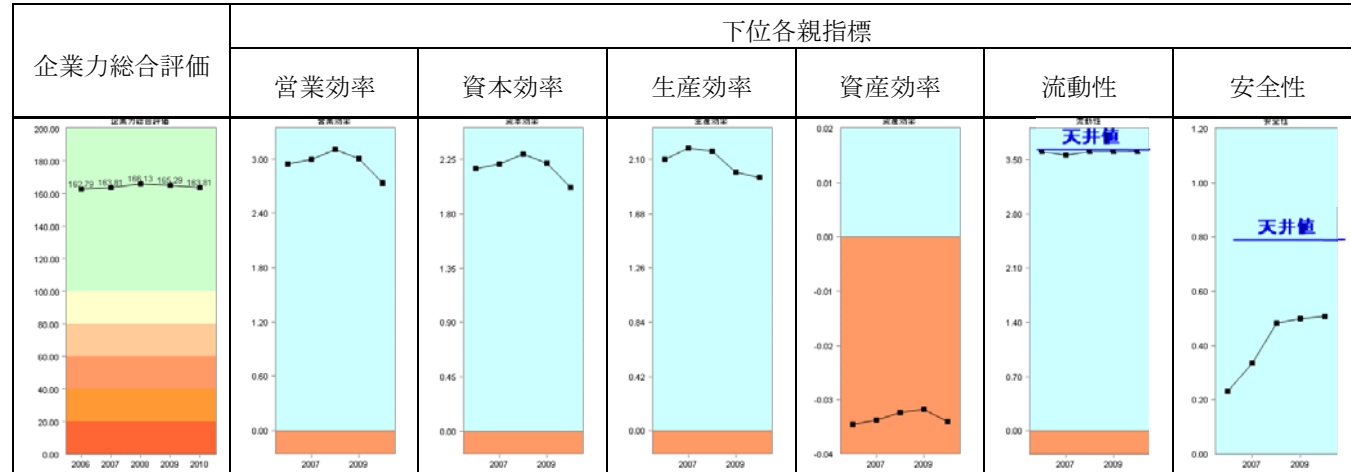


今回は、ノエビア株式会社を取り上げました。ノエビア㈱は、1964年会長の太倉昊氏が貿易業を創業されたことに始まります。1978年に化粧品の製造・販売を開始し、今では食品事業、医療品事業、ボディファッションやアパレル、航空関連事業をされています。「勝ち馬に乗ることに長けた会社かも」という印象を受けます。

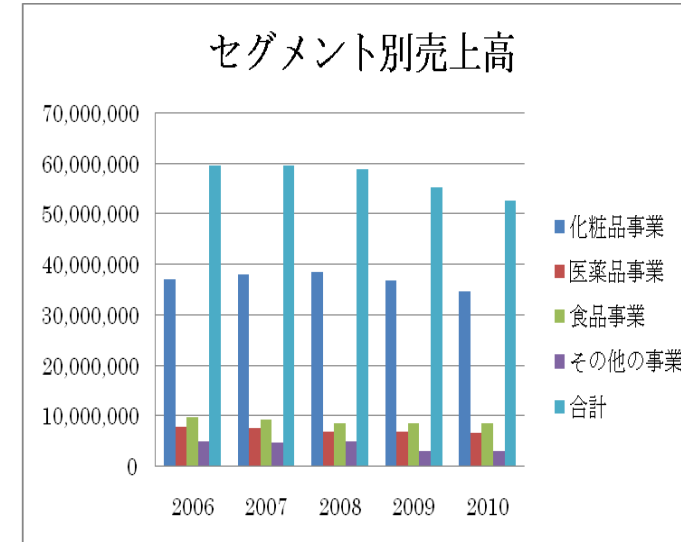
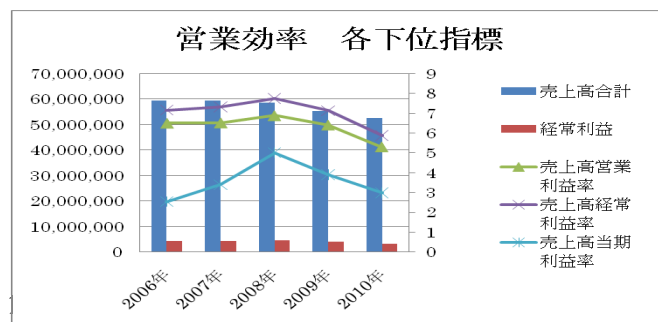


企業力総合評価は162.79→163.81→166.13→165.29→163.81と160ポイント台で安定しています。下位親指標を見ると、安全性(長期資金繰り指標)が改善しており、営業効率(儲けの指標)、資本効率(資本の利用度指標)、生産効率(人の利用度)の下落を相殺しています。2008年の安全性の急改善は60億円の増資(払込資本は75%増加)によるものです。リーマン・ショック前に増資し、借入金を減少させているところなど、福の神様でもついているのでしょうか。資産効率(資産の利用度)はドブプリと赤信号領域、流動性(短期資金繰り指標)は天井値、と定位置です。

営業効率の各下位指標を見てみましょう。

	2006年9月	2007年9月	2008年9月	2009年9月	2010年9月
売上高合計	59,344,810	59,351,712	58,668,917	55,227,102	52,580,449
売上総利益	38,358,750	38,609,699	37,969,365	36,142,632	33,366,878
売上高総利益率	64.64	65.05	64.72	65.44	63.46
営業利益	3,858,493	3,868,695	4,042,873	3,538,931	2,782,461
売上高営業利益率	6.50	6.52	6.89	6.41	5.29
経常利益	4,249,323	4,344,563	4,543,274	3,938,412	3,087,290
売上高経常利益率	7.16	7.32	7.74	7.13	5.87
当期利益	1,507,427	2,017,834	2,937,116	2,151,842	1,565,168
売上高当期利益率	2.54	3.40	5.01	3.90	2.98

売上高は4年間で11.4%、67億6436万円減少しています。女性の化粧品にけるお金が30%ほど減ったとテレビのニュースで言っていました。デフレ、価格競争、リーマン・ショックと外部環境が厳しい中、全社の営業利益率の下落は1.21%で踏みとどまっています。



セグメント別の売上高、営業利益率、従業員数のグラフを見て下さい。ノエビア㈱の主力セグメントは化粧品事業であり、営業利益率も高く、従業員数もダントツに多いですね。

食品事業は2010年営業利益率が悪化しましたが、改善トレンドにはなっています。ノエビア㈱の2本目の柱となるでしょうから、利益率改善のテコ入れをしてくると思われます。

それに対し、医薬品事業は苦戦しています。営業損失を4期連続出しています。食品事業と同じくらいの従業員数です。医薬品事業は、常盤薬品工業㈱他3社で行っていますが、内2社は持分法非適用関連会社ですので、上記数字には反映されていません。財務体質が良いノエビア㈱のことですから、M&Aで医薬品事業を売却するか、他社の医薬品事業を購入するかして、業績回復を図る可能性があります。

まとめ

財務体質が良く、高い収益性のノエビア㈱はどんな手を打ってくるでしょう。今後の展開を注視したいものです。

**編集後記** 若い女性が化粧品にお金を使わなくなったそうです。生まれた時から、バブル崩壊後の日本の経済は横ばい・悪化トレンドでした。親の世代がリストラされ、先輩が就職氷河期で苦しんでいる姿を見て育ったからだと言われています。「合コン」より「女子会」、スッピンでOKです。 **文責MS**  
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-9-21 SARUKIビル4F 猿木真紀子税理士事務所  
Tel.06-6631-4570 fax.06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp